

所在地 ● ……静岡県沼津市本字下一丁田889-7

面積 ● ……約132㎡(約40坪)

ユニット ● ……4台

スタッフ ● ……歯科医師2名、歯科衛生士4名、歯科助手・受付3名、滅菌担当者1名

患者数 ● ……1日約55名

診療時間 ● ……9:00~12:00、14:00~18:30 (土曜日は~14:00)、休診日は日曜日・祝祭日

歯科医療に夢を！ 患者さんが 興味をもつ治療を目指して



● 父の教えを糧に故郷で開業

海沿いの公園に近い住宅地に「シラカベ歯科医院」がある。沼津は昔から漁業が盛んで、近くには魚市場があり、首都圏から約1時間の立地を活かした企業の工場も多い。院長の白壁浩之先生は、本家が営む呉服商に勤めていた父親が暮らす実家近くで開業した。

「本を読むことはそれほど好きではなかったのですが、野口英世の伝記に共感して、医者になりたいと思いました。祖父は家を継ぐ

ことを期待しましたが、父は『好きな道に進め。経営もできる薬剤師がいいのでは』とアドバ

白壁浩之

profile
院長の白壁浩之先生は、1967年静岡県生まれ。1993年、東日本学園大学(現・北海道医療大学)卒。約5年間、札幌市の3軒の歯科医院でそれぞれに義歯、レーザー治療、夜間診療を学ぶ。故郷の沼津市で2軒の開業医で勤務後、1999年、現在地で開業。

イスしてくれました。歯学部と薬学部の試験に合格しましたが、人と関わるのが好きなので歯科の道を選びました。いまは、歯科医師になってよかったと思っています」

4年前に亡くなった父から教えられたことは多い。

「“驕れる者久しからず”と、耳に聾聾ができるほど言われてきました。開業するとき、商売をしていくには3つの条件がある。1つ目は地域に惚れなさい、2つ目に仕事に誇りを持ちなさい、3つ目に女房を大事にしなさい。この3つは大切なことですので、学会の発表やセミナーでも話に入れるようにしています。おかげ様でお世話になっている先生方、患者さん、業者さん、スタッフ、家族に支え



▲『シラカベ歯科医院』の外観

られ、昨年2月に10周年を迎えられました」

患者層は、子どもからお年寄りまで幅広い。社保・国保とさまざまで、自費は約3割。待合室に置かれた液晶モニターには、歯科の健康情報を中心に、料理のレシピやゲーム感覚の心理テストなどを流している。壁のボードには新しい治療法などの情報がいっぱいだ。

「歯は体の大事な器官なのに、歯科のPRはまだまだ限られていると思います。歯周病原細菌の多い患者さんのほうが、インフルエンザの感染率が高いというデータが出ていたり、歯周病は心臓病や糖尿病とも関係していることがわかってきています。私が発信したいと思う情報は院内に掲示をして、ホームページには私の思いを綴るサイトもあります」

血圧計、フットマッサージャーなどを置き、患者③の健康面にも気を配る。待合室の一角には子ども用のプレールームもある。

「歯科医院は、怖くて痛くて行きたくない場所だと思っていますので、私たちの患者さんに対する対応が重要だと思います。患者さんへのインフォメーションを徹底し、歯科疾患や治療の説明には液晶モニターを使っています。治療の3本柱として、レーザー治療と床矯正と歯周内科治療を掲げています」

- 医療はショータイム。レーザー、床矯正、
- 歯周内科治療を採り入れる

白壁先生は、北日本レーザー歯学研究会の主要メンバーとして、「最先端レーザー治療」などのリーフレットを編集するレーザー通だ。開業当初に2台、その後、Nd:YAGレーザー、炭酸ガスレーザー、半導体レーザーなど計5台を備え、症例によって使い分けている。

「レーザーを使う診療は患者さんに対して



▲待合室の壁のボードには情報がいっぱい。血圧計やフットマッサージャーも備え付けている

ショーをお見せするような要素もあります。顎が痛くて口が開かないという患者さんにレーザーを当てて楽になった、レーザー照射で口内炎の痛みが和らいだとなれば、ショーを演じているようです。ほかにも外科的な処置をしたり、歯肉の黒いメラニンを審美的に除去したり、知覚過敏を抑えたりしています」
床矯正は、子どもが中心だ。

「札幌にいたとき、知り合いに受け口の子がいて、どうしてもと言われて、自分が装置を作って矯正をしていました。その後、床矯正研究会主幹の鈴木設矢先生に教えていただき、歯を抜かずに顎の発育を促しながら、歯並びを整えています」

歯周病治療は位相差顕微鏡で細菌検査を行い、口腔内の菌の状態を確認する。

「歯周病は感染症ですから、内科的な考え方を取り入れて薬を使っています。これまでの治療では、レーザーの殺菌効果で歯肉がしまると患者さんが楽になり、症状もかなり改善しましたが、限界がありました。患者さんに外科的な処置はしたくないと言われて、メンテナンスを続けて結果的に抜かざるを得ない例がいくつかあり、悩んでいたときに生田図南先生のセミナーを体験しました。今では、効果のある治療法の一つではないかと



▲診療中の白壁先生

考えています」

インプラントはもとより、顎関節症の治療、ホワイトニング、ノンクラスプデンチャーなど、最新の治療法や器材をマスターしている。

「常に最新の設備や機器を、患者さんのために採り入れていきたいですね。インプラント治療は今では頻繁に行っていますが、最初は簡単なものしか行いませんでした。ソケットリフトなどの難しい症例は避けていたのですが、患者さんに『先生にやってほしい』と言われ、だんだん範囲が広がってきました」

多くの学会や研究会に所属し、勉強を続けている。

「いろいろな先生方と出会えるので、外へ出て行くのは好きですね。情報は自分から出かけて得られるものだと思いますし、そこから視野も広まります。自分が納得した情報を患者さんにお話することで、患者さんにもプラスになり、納得していただけるのではないかと考えています」

● 挨拶と返事は治療の一端

月1回スタッフ全員で集まり、医院向上のための意見交換を行う。最近、朝礼も始めた。

「『企業に倫理を、職場に心を』を掲げる倫

理法人会の幹事ですので、私が思ったこと感じたことを話したり、職場の標語を読んで、みんなにも理解してもらっています。どの職業でも、挨拶と返事は大事ですし、『ホウレンソウ（報告、連絡、相談）』も共通していると思います。呉服商だった父の血が流れているせいか、病院がドンと構えていればいいとは思いません。歯科医も白衣を脱げば、ただのヒトです。私が前向きな考えを発信することで、スタッフも理解し、患者さんにも伝わるのではないかと取り組んでいます」

歯科医院の雰囲気は、スタッフで決まるとの思いがある。

「相手の目を見てきちんと話すことはとても大事です。歯科医にも、患者さんが訴えていることをキャッチして、きちんと受け止めることが求められていると思います。スタッフは、患者さんを主役に考えてほしいですね。たとえば麻酔後、歯科医が忙しければ、『ご気分悪くはないですか』と声をかけるというような心配りをしてほしい。それはスタッフだけでなく、私も含めてだと話しています。スタッフ全員が仕事を楽しむ。それが自然に患者さんに伝わり、心遣いのできる治療に結びつくのではないかと思います」

最近、滅菌担当が出産で退職し、新人スタッフと交代した。滅菌には力を入れている。

「歯科界では、滅菌がおろそかになっているのではないかと思いますね。見えないところだからこそ、きちんと行うべきだと思います。新人にがんばってもらっていますが、行動で示すことで、言葉で言わなくても患者さんにわかっていただけるとと思いますし、スタッフも安心だと思います。チーム医療です

ので、もっともっと安心できる滅菌システムにしていきたいですね」

● 食育の大切さを説き、物事はプラス思考で

子どもたちの矯正を通じて、体の免疫を高めるために、食生活の大切さを説いている。

「子どもたちはどんどん成長していきますから、しっかり食べる、よく噛むことが大事です。お母さん方には『よい顔を作りましょう』とお話しします。矯正によっていろいろな機能が高まって、しっかり物を噛むことが顎の発育にも影響し、もっとカッコイイ顔、かわいい顔になっていく。そのためには、日ごろの食生活が大切です」

現代の食生活に感じるころは多い。

「食事も別々のような核家族の食卓では、人間関係も築けません。食生活がしっかりしていない子どもに、歯ブラシをしっかりとろろといっても無理な話です。歯科医院のメンバーは、みんな口に携わっていますから、食生活を指導することは大事だと思います。お母さんたちには、食べ物の具は大きめに切りなさい。食べ物を流し込むための水を食卓に置かないように。椅子の場合は、足がつくように踏み台などを置いて姿勢を正しくしましょうとお話しています。難しいことは言いませんが、発信し続けて、子どもたちが大人になったときに私の言葉が頭の隅に残っていてくれれば、万々歳ですね」

歯科界の状況は厳しいが、それでも前向きにと考えている。

「どの業界も大変だと思いますが、そのなかでも業績が伸びている企業はあります。経営の不振を他人のせいにするマイナス思考



▲院長（中央）を支えるシラカベ歯科医院のスタッフでは、良くはなりません。世の中が大変だからダメだと思ったら、それまでです。ではどうするか、自分がすべきことをプラス思考で考えれば、仕事に対しても魅力が感じられると思います。研修医の指導医を務めていますが、歯科界にかぎらず、夢を持たない若い人が多いのは何とかしなければと思いますね」

“仕事は楽しまないと人生楽しくない”がモットーの白壁先生。今後の抱負を。

「スタッフが辞めることで悩んだときもありましたが、最近は長く勤めてくれる人もいます。2人目の出産のために退職したものの、落ち着いたらまた働きたいという元スタッフもいて、うれしいです。いつまでもバリバリできるわけではないので、私に何かあっても、スタッフにも患者さんにも迷惑をかけないというシステムを早く確立したいですね。同時に、私自身ももっともっと勉強して、スタッフと一緒に楽しみながら仕事ができれば、これほど幸せなことはないと思っています」

最新の器材、技術、情報を積極的に採り入れ、地域の人々の口腔の健康を育む白壁先生の精力的な活動は、住民の厚い信頼に支えられ、さらに進化を遂げていくであろう。